

令和 8 年度国際理解ワークショップ 進行シート

令和 8 年 8 月 5 日作成

大 学 名：新潟大学

タイトル：フードダイバーシティってなに？——食卓の多文化共生をめざして——

1. 本ワークショップに関連する SDGs の目標に○印をつけてください。

○印	SDGs17の目標	○印	SDGs17の目標	○印	SDGs17の目標
	 ①貧困をなくそう		 ⑦エネルギーをみんなに そしてクリーンに		 ⑬気候変動に 具体的な対策を
	 ②飢餓をゼロに		 ⑧働きがいも 経済成長も		 ⑭海の豊かさを 守ろう
	 ③すべての人に 健康と福祉を		 ⑨産業と技術革新の 基盤をつくろう		 ⑮陸の豊かさも 守ろう
	 ④質の高い教育を みんなに	○	 ⑩人や国の不平等 をなくそう		 ⑯平和と公正を すべての人に
	 ⑤ジェンダー平等を 実現しよう		 ⑪住み続けられる まちづくりを		 ⑰パートナーシップ で目標を達成しよう
	 ⑥安全な水とトイレを 世界中に		 ⑫つくる責任 つかう責任		

2：本ワークショップの要旨

このワークショップでは世界の「食」をテーマに、フードダイバーシティや多文化共生について理解を深めていく。宗教や伝統などを背景とした食文化の違い（たとえば、イスラム教のハラールやラマダンの断食）を知ることを通じて、世界のフードダイバーシティについて考える。また給食の献立づくりなどのグループワークを行うことで、生徒が主体となって「食」をつうじた多文化共生のあり方について考えてもらいたい。

3：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

食という人間の基本的ニーズを充足するにも、さまざまな文化的制約があり、だれもがいっしょに食べることのできるメニューはなかなか考えられない。とくに宗教は食における戒律に大きな影響を及ぼしており、食事をつうじて人々を結びつけることを難しくしている。異なる宗教、習俗、慣習をもった人々が暮らす多文化社会で、「同じ釜のめしを食う」という日本的な絆づくりを可能にするにはどうしたらいいだろうか。本ワークショップでは、とりわけ食の戒律に厳しいイスラム教に焦点をあて、異文化への理解を深めることで、敬遠しがちな多文化共生をより身近な問題としてとらえるようになってほしいと考えている。「郷に入りては郷に従え」と一方的に命じるのではなく、外から来た他者と「ともに郷をつくる」という対等な姿勢こそが、いまの日本の社会に求められているのではないだろうか。

4：本トピックをとりあげる理由

現在、日本には 400 万人以上の外国人が暮らし、毎年 4000 万人を超える外国人観光客が訪れている。日本で暮らす外国人は、中国、ベトナム、韓国、フィリピン、ネパールに次いで、インドネシアからの移住者が近年とくに増えている（2025 年 12 月末で 27 万人近く）。インドネシアは人口 2 億 8000 万人以上で、その九割近くがムスリムの世界最大のイスラム教国である。また、日本を訪れる外国人観光客はその多くが韓国、中国、台湾といった東アジアからだが、マレーシアや中東諸国などからの来訪者も増えている。これらの国もイスラム教信仰の熱心なところである。

こうしたなかで、すでに日本でも外国人が多く暮らす地域ではハラル食材の専門店がふつうに存在し、礼拝のためのモスクもあちこちに見られるようになった。また、観光地でもハラル対応をうたったレストランや土産物店が軒を連ね、国際線の入る大きな空港では礼拝所も設けられるようになった。私たちにとってムスリムは、はるか向こうの遠い存在ではなく、身近な隣人でありお客さまとなっているのだ。そうだからこそ、私たちはイスラム教についての知識を深める必要がある。イスラム教には偏見や誤解も多く、そのことがムスリムへの不安を強めているのも確かである。国内でさらに増え続けるであろうムスリムと共存するためには、私たち自身がイスラム教を正しく認識しなければならない。以上が、本トピックをとりあげた理由である。

5 : 活動過程

(使用時間 : 約 90 分 参加人数 : _____)

過 程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予想される反応、 その他注意事項
導 入 : 起 (10 分)	ファシリテーターと生徒の自己紹介	食がテーマなので各自好きな食べもの（日本と外国の）を紹介しあう	親しみを持ってもらう	PPT スライド	外国につながる生徒がいる場合は配慮する
	テーマの解説	フードダイバーシティについて簡単に説明する（とくに宗教に起因する食の多様性について）	ワークショップの問題関心を共有する	PPT スライド	中学校社会・高校地歴などで学んだこと（世界の三大宗教）を確認する
展 開 : 承 (30～35 分)	グループワーク①	中東・ヨーロッパ・アフリカと思われる世界の家族の写真 3 点を用いて、それぞれの国名と各家族が信仰する宗教を考えてもらい、グループごとに発表する	世界の地域と宗教の分布への関心を持ってもらう	写真(コピー) 国名入り世界白地図 ワークシート	正しい答えを導き出すのではなく、それぞれの答えに至った理由に注目する
		ヒントを出しながら正解を伝え（すべてイスラム教）、それぞれの写真について説明を加える	ここでイスラム教の広がりとムスリムの多さに気づいてもらう	世界宗教地図	三家族の写真からイスラム教の多様性にも気づかせる

発 展 : 転 (30 分)	イスラム教に関するクイズ	イスラム教に関する10のクイズにイエス／ノーで答えてもらう	食だけでなく、イスラム教全体についての正しいイメージを持ってもらう	ワークシート	イスラム教への偏見や誤解が生まれないよう、戒律の背景や、地域や個人による対応の違いにも言及する
	(休憩)				
	グループワーク②	食に関するクイズを再確認し、まずラマダンの「断食」について議論し、各グループで発表してもらう	クラスにムスリムの同級生がいるとして、ラマダンのあいだ彼／彼女にどう配慮すればよいか考えさせる(お昼の時間、体育の時間など)	ポストイットコピー用紙	発表のあと実際の学校現場での対応などを紹介する
	グループワーク③	つぎにイスラム教の食の禁忌(タブー)について議論し、各グループで発表してもらう	イスラム教では豚肉と酒が禁止されていることをヒントに、ある学校の給食の献立でムスリムの同級生が食べられるものと食べられないものを考えさせる	ポストイットコピー用紙	発表のあと実際の学校現場での対応などを紹介する

まとめ：結 (10～15分)	グループワーク④ まとめ	グループワーク③を受けて、ムスリムの同級生と給食と一緒に楽しむにはどうすればよいかを議論し、発表してもらう 日本におけるハラル対応の取り組みなどを紹介する	本ワークショップの課題である「食卓の多文化共生」について考えてもらう 身近な多文化共生の存在に気づいてもらう	ポストイットコピー用紙 PPT スライド	それぞれの意見を等しく尊重し、決して優劣はつけない ワークショップに参加してもらったお礼を伝える
---------------------------	----------------------------	---	--	------------------------------------	--

6：会場のセッティング（対面の場合のみ）

4～6人でグループをつくるので、机を動かせる教室が望ましい

7：使用する教材

進行シートに記載済み

8：参考にした資料

『写真で学ぼう！「地球の食卓」学習プラン10』開発教育協会
『徹底図解 世界の宗教 新版』島崎晋著、新星出版社
一般社団法人ムスリムフレンドリー国際協会ホームページ ほか

9：その他